２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7061号
ＳＳＴＫ　１９８３年７月１９日第三種郵便物承認(1)　第３９号

ＳＳＴＫ さくら草だより

発行人：埼玉県障害者団体定期刊行物協会
〒332-0851　川口市芝新町15-9
アステール藤野1階
電話　048-225-1625　頒価　50円

編集人：社会福祉法人さくら草
〒336-0015　さいたま市南区太田窪3501-2
HP　http://www.sakuraso.net/　電話　048-813-7426
Fax 048-8866301　E-mail　info@sakuraso.net

大谷口幼稚園作品展に参加しました

平成29年2月18日(土)に行なわれた大谷口幼稚園の作品展に、利用者3名、職員２名で参加させていただきました。

授産品の販売では例年通りあんくじ班で作ったせっけんや陶芸品に、今年から新たにコスモス班で作成した「こむぎん」が仲間入りしました♪

「こむぎん」とは風船に小麦粉が入った人形で、触ると独特な感触がするもので、園児さんに大好評でした。

その他に「お菓子釣りゲーム」を行ない、こちらも園児さんに大人気でした。たくさんお菓子を釣りたい子、お目当てのお菓子を釣りたい子、「うまくできるかな？」と不安げな表情を浮かべる子など、いろいろなお子さんがいておもしろかったです。

利用者の方々はそれぞれ好きなことや得意なことを活かして、頑張っていました。

積極的にお客さんに声を掛ける方、もくもくとお菓子釣りゲームに使うお菓子にクリップをつける方、優しい笑顔でさくら草の顔として店番をする方など、個性を活かして仕事をされていました。

大谷口幼稚園の作品展に参加させていただくことで、利用者さんの新たな一面が見られることもあります。毎年声を掛けてくださる大谷口幼稚園さんに感謝申し上げます。（沼澤）

さいたま南ロイヤルライオンズクラブ様より車両の寄付をいただきました！

さいたま南ロイヤルライオンズクラブ様より福祉車両(ダイハツTANTO)の寄付をいただきました。寄付していただいた車両はアシストさくら草で外出支援、送迎に使用させていただいています。利用者さんの地域生活を支えるために、今後とも変わらぬ支援をよろしくお願いいたします。さいたま南ロイヤルライオンズクラブ様に心よりお礼申し上げます。

デイセンターさくら草・アトム　（折り～封入を担当）
✽さくら草だよりは晃新印刷様のご厚意を頂き印刷しております✽

２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7061号
ＳＳＴＫ　１９８３年７月１９日第三種郵便物承認(2) 第39号

祝！さくら草成人式

今年の成人式は、アトム班より１名成人を迎えた方がいらっしゃいました。Ｒさんの成人を多くの方がお祝いをしました。みなさんの言葉を一言、一言しっかり受け止めているように感じました。本当にありがとうございました!!

…帰り前のお話です。お気に入りの晴れの衣装にもう一度着替え、大好きなＡさんとツーショット写真を撮りました。とっても笑顔。おめでとう!!Ｒさん!!素敵な女性になりましょうね!

（奈良）

デイセンターいぶき開！

デイセンターいぶき　開設にあたりご協力いただいた方々に御礼申し上げます

＜デイセンターさくら草・アトム活動報告＞（２０１７年　1月1日～２０１７年3月31日）

1/11　成人式	1/28　小児在宅医療に関する介護職員スキルアップ研修会　(八木)
1/18　障害者虐待防止研修　(関口)	2/15　デイセンターアトム避難訓練
1/26　障害児通園施設支援事業所職員研修(関口)	2/23　キャンドルクラフト作成研修　(鈴木)
1/21,28,2/4 行動援護従業者養成研修会（中野）	3/9　デイセンターさくら草避難訓練
1/27　施設長及び幹部職員研修会(山本宏、近藤)	3/29　入所式

健康診断：年２回／通院介助、静的弛緩誘導法訓練会参加、陶芸、せっけん教室：適宜
誕生会：各誕生月／理容カット、体重測定、各班避難訓練、各班イベント、音楽療法、
アロマセラピー、給食会議、家族会：月１回／美容カット、安全委員会：隔月／各会議：月１回～

２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通7061号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(3)　第３９号

研修会を行いました

２０１６年３月２日（木）サポートさくら草全体研修会を行いました。
テーマは「ワンランク上のプロの援助者を目指す」です。
講師は特任ＳＶ・臨床心理士の小川憲治先生です。職員・ヘルパー含めて４０人を超える参加となりました。

研修内容として、まず小川先生からの講義が４５分間。メンタルヘルスと対人関係についてお話を伺いました。現代社会においてストレスが多い職場環境や人間関係、適応不全などにより、誰でもいつでも心の病を発症する可能性があるとのことでした。

自分自身のメンタルヘルス向上のためには、利用者や支援してくれる仲間との対人関係の充実や、信頼関係を深めることが大切。さらに援助者としてレベルアップも目指していく必要があると学びました。

＜講義の様子＞

＜各グループから発表＞

後半は約１時間かけてのグループワーク。ひとつの事例について６班にわかれて話し合います。講義の感想から始まり、メインとなる事例検討、各自の援助姿勢を振り返るため「個別化」「受容」「非審判的態度」についてそれぞれが考え話し合います。

発表の中には「自分自身の価値観と利用者さんの価値観が対立し、わかっていても受容することが難しい」「介護しているうちに、どうしても審判的な考えが頭に浮かんでしまう」「介護中にも沈黙が必要だとわかった」等々率直な意見が多くあがりました。

最後に小川先生からのまとめと補足がありました。その中で
「かけた情けは水に流せ。受けた情けは石に刻め」
と教えていただきました。何事にもそのような姿勢で臨んでいきたいと考えました。

（佐々木千恵）

サポートさくら草

２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7061号
ＳＳＴＫ　１９８３年７月１９日第三種郵便物承認(4)　第３９号

～卒業によせて～

平成２９年の春が来ました。高等部までの１２年間お世話になったいとしの学び舎を卒業し、お仕事をするという環境へわが子の背中を押す春がやってきました。

思い返すと島根県松江市で拳次郎が誕生したとき生後１か月でクレチン症（甲状腺機能低下症）、１歳の時にてんかん、さらに３歳のころに広汎性発達障害という診断を受け、涙も出ない状況でどううけとめていいかわからなくなった自分がいました。上の子２人は歩くこともしゃべることもすべて当たり前と思っていた成長は、とても凄いことであったのだと、拳次郎の様子をみて感じる事が多々ありました。３歳のころに主人の転勤で松江市からさいたま市に移住し、さくら草学園に通園、そこでいろんな先生方や、お母様方との出会いが私の大きな支えとなりました。

ゆずとの出会いは浦和特別支援学校小学部２年生くらいだったと思います。動きも大変な拳次郎でしたが、私も仕事を少しづつ始めた時期でした。ゆずは人気がありますので、ゆずを利用できることになったときは素直にやった！嬉しいと思いました。

仕事をしているときは、息子のことは申し訳ないくらいすっかり忘れている自分がいます。仕事があることで、自分が自分であることを保っていられる。ということもありますそして、息子にも優しくできたりします。そして、支援を受けながら、拳次郎が１８歳になった現在も仕事を続けることができています。

息子と病院は一生切れることのない縁ではありますが、生まれてからこの１８年間、息子の病院に行かなかった月は１度もありません。毎月の通院は当たり前の生活。成長と共に変化してゆくてんかんの形や薬の調整、特に変化があったのは高等部に入ってからすぐでした。大発作をおこし救急搬送。薬の大きな変化により、２階のベランダから飛び降りようとする、洗面台の上に飛び乗る、玄関から脱走する、もうこれで人生終わったという場面の数々。夜眠ってくれないので、朝方まで親も眠れない、寝てしまったら又どんなことになるか不安。「助けて」という思いの時期もあり、学校に殆ど行けなかった高等部の一学期がありました。

そんな気が変になりそうな時も必ず、ゆずのヘルパーさんがいて、対応してくれました。高等部3年の時は、てんかんの大発作が２週間に1度くらい出たり、パニックになることも現在まで続いていますが、薬が少しずつあってきて、以前より落ち着いています。

そんな拳次郎の状態をいつも理解しようとしてくださるゆずのヘルパーさんは常に堂々と対応し、送っていただくときも笑顔いっぱいです。てんかんの発作についてもしっかり勉強されているので安心しています。ヘルパーさん一人ひとりが自信を持って支援をされる姿に感銘を受けています。私が心配をし過ぎていると、その様子を見て「大丈夫、一緒にゆっくりやってゆきましょう」とおっしゃって下さる言葉にどれだけ救われてきたことか。拳次郎にもそのような対応をしてくれるヘルパーさんの思いや笑顔がしっかりと伝わっていて「ゆずさん、明日、カラオケ、行きたい？」と伝えてくれるようになりました。

いろんなサービスを利用できている現在、私たちは本当に恵まれていると実感しています。その道を作ってくださった先輩・お母様達・お父様達の大きな思いがあり、今を生きていられる。拳次郎と共に生きていることを幸せだと思えることに感謝したいと思います。そして、今度は私も、これから何ができるのかを考えていく番なのかなと思います。

まずは、前に進もうとしているわが子の背中を不安がらずに、自信を持っていってらっしゃいと言えるように、親であるわたしもまた少しだけ成長させてもらえるようにしたいと思います。

今回は、高等部を卒業される中村健次郎さんのお母様に今までそしてこれからの思いを綴っていただきました　（八木）

サポートゆず

２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7061号　第３９号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(5)

祝!!てんハウスぐりん３年目突入!!

ぐりんは今年3年目の春を迎えます。
開所以来長かったような、短かったような複雑な気持ちです。
10人の入居者達も親元を離れ色々な葛藤があったと思います。
それは家族・職員も同じです。
これからも「ぐりん」らしさとは何かを追求し、新たな進化を求めて進んでいきます。今後共てんハウスぐりんを宜しくお願い致します。
【管理者　山本和子】

ぐりん開所して以来初めて1月に利用者さんみんなでお鍋を囲みました。
いつもこの指とまれ!!さんが食事を作って下さるのですがこの日だけはこの指とまれ!!さんの協力を得ながら職員を筆頭にお鍋を作り、最後は雑炊にして頂きました。とても寒い日だったので心まで温まりました。お鍋はホタテが染みていてとても美味しかったです。また寒い日にお鍋をみんなで囲みましょう★
とある日・・・。今日は土曜日。これからお出かけ組とぐりんでゆったり組で分かれます。そんな日にマットを敷いてゴロ～ン!!見ていてホッコリさせて頂きました。

ニヤリホット

美味しそうなお鍋

てんハウスぐりんでは往診・かかりつけ薬局・訪問看護の契約を勧めています。
往診はハーモニークリニックさん。先生方が優しくて利用者さんもニッコリ。気付いたら肩を揉んでくれていたり・・・（笑）
お世話になってる〇〇〇薬局さん。
この風景どこかで見た事あるような??ご想像にお任せします!!
いつもお世話になっております!!
てんハウスぐりんまで
わざわざ薬やツインライン、
そしてオムツまで配達して下さいます。

1月のインフルエンザが大流行した時期は飛んでタミフルを持ってきて下さいました。
今後とも宜しくお願い致します（●＾o＾●）

【てんハウスぐりん：平田】

２０１７年3月２７日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7061号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(6) 第３９号

平成29年度事業計画(抜粋)

昨年10周年を迎え、今年度は次なる10年に向け歩みだす年になる。
無認可施設の時から「どんなに重い障がいがあっても地域で自分らしく暮らせるように支援する」を理念に、重い障がいをもつ方の日中活動や社会参加、暮らしの場、そして福祉サービスにつなぐ相談支援、緊急時にも対応する地域生活を支える総合的な体制を整えてきた。
更なる利用者支援の充実ために今年度は、以下の取り組みに焦点をあてる。

【重点課題 】
① 社会福祉法の改正に伴い社会福祉充実計画等の取り組み
② デイセンターいぶき（生活介護・川口市）の円滑な運営
③ グループホーム開設準備
④ 事業所間の連携強化をはかり、人材育成と支援技術の向上・防災対策の強化の取り組み
事業所数も増え、職員はヘルパーを含めると二百人余。これまでの各事業所毎の動きから組織的・計画的な事業所間の連携と人材育成を本格的に連動させていく段階にきた。
また昨年、社会福祉法が改正されたことを受け、理事に職員を入れた役員体制にする。「社会福祉充実計画」には、福祉ニーズに応える施設整備等を計画し、責務となった地域の福祉課題に応える地域公益事業の取組みなど新法対応からの動きと重なる年度である。
これを機に平成29年度は、さらに法人が一体となる取り組み、中でも職員待遇の向上と人材育成、支援の質の向上に努める等、中身の充実に重点を置く年度にしたい。（　山本　）

重度障害者の存在価値とはなんでしょうか？

＊女性活躍推進大賞を受賞された海老原宏美さんから小池都知事への手紙の紹介です。

重度の、進行性の障害を生まれ持った私の使命は、もっと重度の障害者の、社会における存在価値を、確立することだと思っています。

価値は、人が創り上げるもの、見出すものだと信じているのです。
青い空に映える富士山を見て、清々しい気持ちになれたりと、価値を創り出しているのは人の心です。人間に与えられた能力だと思います。
あるのは「価値のある人間・ない人間」という区別ではなく、
「価値を見出せる能力のある人間・ない人間」という区別です。

重度障害者の存在価値とはなんでしょう。
重度障害者が地域の、人目に付く場所にいるからこそ、
「彼らの存在価値とはなんだろう？」と周囲の人たちに考える機会を与え、
存在価値を見出す人々が生まれ、広がり、誰もが安心して「在る」ことができる豊かな地域になっていくのではないでしょうか？
重度障害者は、ただ存在しているだけで活躍しているとは言えませんでしょうか？

編集後記
寒い冬を越え暖かい季節になりましたが、花粉症の方にはつらい季節でもあると思います。私は花粉症ではないのですが、毎年「今年はなるのでは？」とドキドキしてしまいます。(M)